

文化協会 文正女

NO.71

令和6(2024)年2月

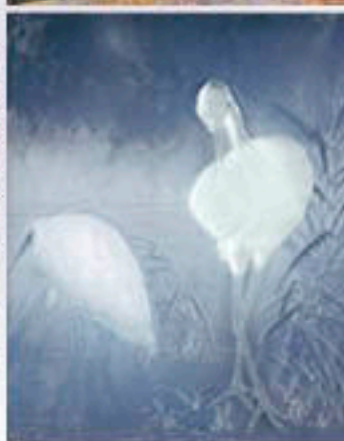
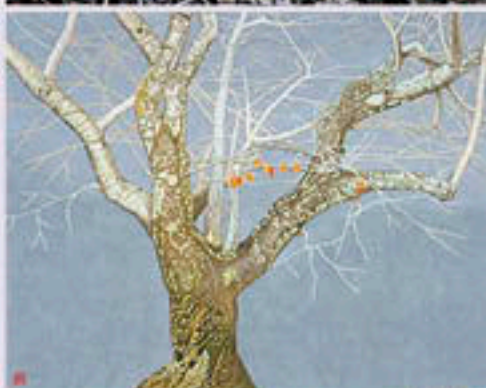
編集・発行

愛媛県文化協会

松山市一番町4丁目4-2

TEL 089-947-5480

題字 / 湯池崇善



愛媛県
イメージアップキャラクター
みさやん

解き放てあふれる想い えひめの文化

令和5年度県民総合文化祭を振り返って

愛媛の秋を彩る文化の祭典として県民の皆様幅広く親しまれてきた県民総合文化祭は、本年度で36回目を迎えました。

今年は一解き放て あふれる想い えひめの文化」をテーマに、3年以上に及んだコロナ禍を経て、新しい時代へと力強く立ち上がっている今、県民の想いがはじけ、躍動する「えひめ文化」の祭典として、10月12月にかけて県内各地で様々な催しを行い約3万8千人の方々にご参加・ご視聴いただきました。各文化団体は、文化イベントの中止や縮小等を余儀なくされたコロナ禍の中で、文化の灯を絶やすことなく活動されてきた成果を披露し、来場された方々を魅了されました。

運営に携わった文化団体の皆様のご尽力はもとより、開催地の市町や文化協会、多くの方々のご理解・ご協力により、今年度も県民総合文化祭を開催できましたことを、改めて感謝申し上げます。

今後とも、県民総合文化祭の開催を通じて、文化芸術の力で愛媛県を盛り上げ、「愛媛あふれる愛媛県」づくりに貢献できるよう取り組んで参りますので、皆様方のお力添えをお願いいたします。

舞台芸術事業

バレエ公演

〔愛媛バレエ協会〕

◎令和5年11月12日(日)

◎愛媛県県民文化会館メインホール

愛媛バレエ協会による県民総合文化祭は、令和5年11月12日(日)に松山出身の吉岡美佳先生振付による「眠れる森の美女」2幕、3幕を協会員生徒80人余りの出演で上演しました。

ゲストには、元パーミンガムバレエ団プリンシパルの厚地慶雄さん、大洲出身の西岡豊吾さんを迎え公演に華を添えて頂きました。

今年の県民総合文化祭は、盛り沢山な行事が重なり、思うような会館使用が難しい中、関係者の方々のご配慮によりリハーサルも無事終え、本書を迎える事が出来ました。

子供達もグランドバレエに触れ、たくさんのお話を学ぶ事が出来ました。この貴重な経験は、今後バレエを学ぶ上での大きな財産になった事と思います。

その事を次回の舞台に生かすべく日々精進して、より一層魅力ある舞台を創って行きたいと思っております。



最後になりましたが、県民総合文化祭に携わって頂きましたすべての関係者の方々、及びご覧いただきました皆様を中心に感謝申し上げます。

目次

令和5年度県民総合文化祭を振り返って………2~6
 吟行ナビえひめ ……………4
 第38回国民文化祭 いしかわ百万石文化祭2023………7
 令和5年度地域こども文化体験教室 ……………8
 令和5年度伝統文化未来づくり事業 ……………9
 活動紹介：常盤津松山錦会 ……………10

活動紹介：えひめキッズ伝統文化ネットワーク………11
 わが町の博物館：佐田岬半島のミュージアム ……………12
 わが町の文化財：永納山城跡 ……………13
 文化イベント情報 ……………14・15
 筆のままに・受賞のご紹介・賛助会員の募集・編集後記…16

〔表紙紹介〕表紙の作品は、第72回秋季県展出品作品です。

左上から順に、リラの愛傷跡(宮崎和香：会員優賞/版画)、空虚(高橋芳和：会員優賞/洋画)、奔(西本佳奈：会員優賞/書道)、古木(網江光男：会員優賞/日本画)、薫る潮騒(松岡博秀：会員優賞/写真)、馬鹿飛(友近吾風：会員優賞/書道)、寒山詩(日野紅雲：会員優賞/書道)、Advance27一ひとやすみ(山地教子：会員優賞/洋画)、森の妖精(村山拓人：準会員賞/彫刻)、風を聴く(藤本修：会員優賞/工芸)以上10名の愛媛県美術会会員の皆様作品です。(敬称略)



文芸分野事業

短歌大会

【愛媛県歌人クラブ】

◎令和5年11月12日(日)

◎愛媛県民文化会館真珠の間A

本大会は毎回、中央歌壇から著名な歌人をお招きし、講演・選歌・歌評をお願いしている。今年の講師は木来短歌会理事長「木来」編集発行人の、大辻陸弘先生。演題は「子規からの出発」で、具体的女子規の短歌を上げながらの解説に、読みの深さ、子規の偉大さを再認識することのできた講演であった。

結社の枠組みを越えての短歌大会。参加者は事前に短歌1首を投稿し、集まった歌の中から各自8首を選歌し、入賞作品を決める。入賞作品は、講師選と一般選各25首(いずれも知事賞、県教育長賞を含む)を表彰。
大会当日は、歌人クラブの役員他が全員の歌を相互批評。講師批評については、講師選の入賞作品のみ。講演・相互批評とも皆さん真剣に耳を傾け聞き入っていた。充実した時間を歌仲間と過ごすことができ、大いに満足された様子。
年々参加者の減少に悩まされているが、今年は、学生の部を設け県内の高校生に投稿を呼びかけた。一般の部一三〇首、学生の部一三〇首が集まった。



生活文化事業

茶会

【愛媛県茶道連盟】

◎令和5年11月11日(土)~12日(日)

11月18日(土)~19日(日)

◎愛媛県生活文化センター

当日は、茶道裏千家淡交会松山支部と愛媛県茶道連盟7流派(前茶4席、抹茶3席)の方々が参加して開催されました。コロナの影響で久しぶりの茶会ではありましたが、どの席も来席者に美味しいお茶を飲んでいただくとうれしい雰囲気でした。静寂さを保つ良い席が準備されていました。



床には軸と季節花を設え、おもてなしの茶道具の整った配置、お菓子お茶を運ぶ無敵のない動作など席を担当されていた席主の先生方の日頃の練習の精神が十分に生かされていました。
多数の来席者をお迎えし、生活文化センターロビーは人で溢れていましたが全日程とも手際よく進行して終了することが出来ました。
椅子を利用する方々が多くなり、親しめる茶会にするために一工夫必要と感じました。茶道文化を通して人との繋がりが、交流を大切にして、生活の中で美意識を養い、心豊かに過ごすことが伝わるよう努力してまいります。



企画公募事業

くまっこ大集合！
みんなアーティスト！！

◎令和5年10月1日(日)
◎久万高原町産業文化会館他



「みんなだーいすき」メンバーが出演したミュージカルの原作者が久万高原町の方。本当なら多くの久万高原町のみなさんに公演を観ていただけるはずが、公演当日大雪で会場に来られなかった方がたくさんいらっしゃいました。大好きな久万高原町のみなさんと一緒に久万高原町を盛り上げることができる

イベントをやりたいという想いで企画した「くまっこ大集合！みんなアーティスト！！」

久万高原町内で文化芸術活動をしている団体や個人のみなさん、障がい者就労支援施設のみなさん、久万高原町役場、社会福祉協議会のみなさんなど、多くの方がイベントの趣旨に賛同してステージ発表、展示、体験ワークショップに参加、協力してくださいました。

イベント当日には町内外の多くの方々に会場に集まっていたので、普段は集まることのない様々な分野の団体や個人が集まっている新しいイベントであったこと、そのため多くの方が観に来てくださり、それぞれの団体や個人のことを知る機会ができたこと、出演、参加団体の横のつながりができたことを喜んでいただけました。

今回イベントを企画、実施したことで、久万高原町内で今後も継続していくために実行委員会を立ち上げ、毎年実施できるように準備を進めていけるようになりました。県民総合文化祭企画公募



事業で素晴らしい機会を与えていただき、今後も継続できるイベントになり感謝しております。「みんなだーいすき」では今後も障がいの有無や種別、年齢

性別にかかわらず、誰もが参加できる地域に根差した活動を続けていきたいと思えます。

五・七・五のこころ
吟行ナゼえひめ

敬ずるにみな佛性よ持供養
供養して心山河の霧はるる
伍健

川柳と野球拳

「野球するなら こういう具合にしやしゃんせー」と歌われる野球拳の創始者である前田伍健さんはまた川柳の第一人者として知られる、ひょうひょうとした趣味人である。

愛媛川柳会の第一人者でもあった前田伍健さんは多彩な趣味人であり、ふっと心が和む多くの川柳を詠んでいる。「考えを直せばふっと出る笑い」などは人生をあくせく生きる人にとって、誠に当を得た思いがする。

伍健の川柳は「真」「情」「美」の感応を自由に平明に表現しようと努めたものであり、川柳を志す者にとっての指針である。

伍健という雅号は秋山好古大将に因んだものという。最初の雅号は五剣だったが、秋山大将から「買実剛健・進取不撓」という書を貰い「剛健」に因んで「五剣」さらに「伍健」から「伍健」へと改めたと伺っている。

(愛媛県川柳文化連盟名誉会長)

塩見 草央



前田伍健の句碑と飯川

令和5年度県民総合文化祭

総合フェスティバル

● 期日：令和5年11月11日(土) ● 場所：愛媛県県民文化会館 メインホール

県民総合文化祭のメインイベントである総合フェスティバルを、高等学校総合文化祭と合同で、11月11日(土)に開催しました。

約1,500人の方にご来場いただきとともに、実施したオンライン配信では1万回を超える視聴をいただきました。

今年度の県民総合文化祭のテーマ「輝き放て あふれる想い えひめの文化」に込められた想いを集約した「運動」をキーワードとし、和と洋のコントラストが際立つ二部構成により、活気あふれるパフォーマンスや見ごたえのあるプログラムが盛り込まれました。

開演前には、県民プラザにおいて松山東雲中学・高等学校ハンドベル部がウェルカム演奏を行い、心地よい音色を披露しました。



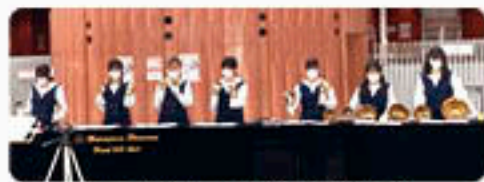
合同開演宣言

オープニングでは、愛媛県警察音楽隊のファンファーレが会場全体に響き渡り、進行委員会の旗

会旗である中村時広愛媛県知事主催者挨拶(演目)と知事代読(演目)の後、土居英雄雄行愛媛県知事と川之石高志高等学校3年の行天小貴さんが合同開演宣言を行い、再び愛媛県警察音楽隊のファンファーレにより開演が告げられました。

◆第一部 「和の運動」

今迄西高高等学校郷土芸能部による若きあふれる



松山東雲中学・高等学校ハンドベル部



今迄西高高等学校郷土芸能部(和太鼓)

和太鼓の演奏で、観客を一気に「和の運動」の世界に引き込むと、川之石高志高等学校書道部とよさこいチーム「ほろろ一座志絆」との「ラボレーション」により、よさこい踊りの軽快な音楽に合わせて運動感あふれる書道パフォーマンスが行われました。続いて、劇流民話会の三味線の演奏に乗せて、中学生の泉川想来さんが強く伸びやかな歌声で民謡を披露しました。さらに、松山東高等学校吹奏楽部とサポート役の愛媛県警察音楽隊によるステージでは、壮大な和の調べで観客を心地よい雰囲気包み、第一部を締めくくりました。

◆第二部 「洋の運動」

中間には、しまなみインシシ活用隊の活動取材した今迄西高高等学校放送部の映像作品「挑(いどむ)」や、松山市柳井町商店街の活性化に尽力する人達を紹介した松山市高等学校放送部の映像作品「若き・よき香・ばか香の街」が上映されました。

第二部は、東京藝術大学音楽学部同声会愛媛支部のヴァイオリンとピアノによるショイントリサیتالにより幕を開け、美しいハーモニーで会場全体をクラシックの音色に染めました。続いてプロダンサーの宮河愛一郎さんと、県内で活動するダンス団体「ダンススタジオ108」との共演により、海外の有名ミュージカル音楽に乗せて、「洋の運動」にふさわしい狂喜のダンスパフォーマンス

スが披露されました。10月7日(土)に行われた「県民総合文化祭オープニングイベント」でも会場を盛り上げてくれた「STU48」をメインゲストに迎え、スペシャルライブが行われました。愛媛県出身の3人を含む総勢16人のメンバーによる爽やかなナンバーが次々と披露され、会場の熱気は最高潮となりました。

◆フィナーレ

フィナーレでは、「STU48」の姉妹グループ「AKB48」の大ヒット曲で、朝の連続テレビ小説の主題歌にもなった「365日の紙飛行機」を、出演

者全員で大合唱しました。ステージ上や観客席から力強い声援が響き、感動のうちに幕を閉じました。



フィナーレ



宮河愛一郎withダンススタジオ108

令和5年度県民総合文化祭

子ども伝統文化フェスタ

● 期日：令和5年12月10日(日) ● 場所：愛媛県県民文化会館(サブホール・県民プラザ)

県民総合文化祭のフェスティバル事業である「子ども伝統文化フェスタ」を12月10日(日)に県民文化会館において開催しました。4年ぶりに制限のない形で実施することができ、多くの方に御来場いただきました。

①開会式

愛媛県教育委員会 田所二教育長による挨拶の後、長年にわたり子どもたちへの伝統文化の継承活動に尽力されたり名の指導者に知事感謝状を贈呈しました。その後、子どもたちによる開会宣言により開幕しました。

【受賞者】

- 武智 豊山(愛媛県民舞踊会)
- 千田 京子(伊和音シニア舞クラブ)
- 伊賀 忠三(川名澤神楽保存会)
- 北村 雅裕(財団法人正派邦楽会)
- 岡崎 香子(池坊いけばな若葉会)
- 足立 真理(茶道麗千家淡文会伊予支部)
- 藤岡新一郎(愛媛流ひな弥会)
- 宇都宮美(道徳親子日舞教室)
- 阿部 圭佑(高部獅子舞保存会)



伊方堂々太鼓シニア



藤岡流舞会・エンゼル
日舞クラブ親子教室

②成果発表

サブホールにおいて、能楽や舞曲、日本舞踊のほか、太鼓、五ツ節踊り、廻りや継ぎ獅子といった愛媛の伝統芸能などを学ぶ18団体の子どもたちが、日頃の練習の成果を発表しました。

③体験・実演・展示コーナー

県民プラザにおいて、川柳やいけばな、茶道、舞、着付けの体験や実演、作品展示が行われ、子どもたちは楽しみな様子で参加しました。



いけばな展示(池坊いけばな若葉会)

子どもたちは様々な芸術・文化に触れ理解を深めました。また来場者と参加団体を繋ぐ取り組みとして正回り口に団体紹介カードのブースを設けました。



古三連子ども虎舞教室



華の体験(清の茶道会)

④特別ゲスト

徳島県から阿波踊り「風来坊」を招き、賑やかで迫力のあるステージを披露いただきました。午前の部ではワークショップも開催され、団体の方のご指導のもと、みんなで阿波踊りを踊りました。明るくお囃子の音に会場全体が笑顔に包まれ、楽しい時間を過ごすことができました。

⑤閉会式

子どもたちが元気に閉会宣言し、温かい拍手の中、幕を閉じました。これからも、子ども伝統文化フェスタを通じて、愛媛の文化を受け継ぐ子どもたちの発表、作品展示の場や、気軽に伝統文化に触れられる機会を提供すること、愛媛の伝統文化を次世代に繋げていきたいと思えます。

参加した子どもたちの声

- 初めてだったのでおどけて楽しかったです。
- どきどきしたけどがんばった。楽しかった。たくさんほめてもらってうれしかった。
- 他の人の演技を見たり、日ごろの練習の成果を発表できて楽しかったです。
- 伝統芸能は、もっと世間に知られるべきだと思います。だから、もっと広めて行きたいです。



阿波踊り風来坊



阿波踊りワークショップの様子

第38回国民文化祭 いしかわ百万石文化祭2023

「第38回国民文化祭」(第23回全国障害者芸術・文化祭)は、統一名称「いしかわ百万石文化祭2023」として、石川県にて開催されました。「文化納備」を大会テーマに掲げ、令和5年10月14日(土)～11月26日(日)にかけて、様々な催しが行われました。

愛媛県からは、合唱の祭典に「伊予銀行合唱団」が、小倉百人一首競技かるた全国大会に「愛媛かるた会」の代表者が、全日本健康マージャン交流会に「愛媛麻雀段位審査会」の子連を勝ち抜いた代表者が、連句の祭典に「愛媛連句連盟」が出席し、日頃の精進の成果を存分に発揮されました。中でも連句の祭典では、「文部科学大臣賞」ほか1賞を受賞されるなど華々しい活躍をされております。

国民文化祭は、全国の文化団体が一堂に会し、活動の発表や他県団体との交流を深めるとともに、地域の特色を生かしたイベントを開催する国内最大規模の「文化の祭典」です。令和6年度は、「清流の国ぎふ」文化祭2024」として10月14日(月)から11月24日(日)の間、岐阜県にて開催される予定です。「とも・つなぐ・みらいへ」清流文化の創造」をテーマに各種催しが実施される予定ですので、各分野別・地域別団体にお送りしている各種案内や国民文化祭のHPをご確認いただき、ぜひ参加をご検討ください。



いしかわ百万石文化祭の公式HPはこちら



「清流の国ぎふ」文化祭の公式HPはこちら

合唱の祭典

令和5年10月21日(土)
石川県立音楽堂コンサートホール

伊予銀行合唱団

令和5年10月21日、石川県金沢市で開催された、第38回国民文化祭・いしかわ百万石文化祭2023「合唱の祭典」に出演いたしました。

演奏は、銀色夏生の詩を合唱曲に編曲した「終わりのない歌」から3曲。荘厳なパイプオルガンと高い音響性を備えた素晴らしいコンサートホールの舞台から、加賀百万石に受け継がれる美と芸術への情熱を感じ、私たち団員も



かつてないほどの高揚感のなかで気持ちよく歌うことができました。また、本番後に訪れた兼六園や金沢21世紀美術館もよい思い出となりました。本年元日に発生した能登半島地震は、会場となった「石川県立音楽堂」や県内の



観光地にも甚大な被害をもたらしました。まだ日常の生活すらままならない痛ましい状況ですが、一日も早く石川県のみなさまが音楽のもとに集い、楽しく歌える日が戻ることを心よりお祈り申し上げます。

連句の祭典

令和5年10月28日(土)・29日(日)
かが交流プラザさくら(加賀市大聖寺)

愛媛県連句連盟

愛媛県からは4名参加。大会前日の吟行会では、芭蕉が巡った「奥の細道」の旅の終りに、弟子の曾良と別れて一人辿った山中温泉界隈。「芭蕉の館」見学後、鶴仙溪の紅葉を堪能。大聖寺にある全国寺は、芭蕉が座蒲団の若い僧達に今でいうサインをねだられた



連句の祭典

会は結成十年ほどですが、このような賞を頂き大きな自信になりました。仲間あつての連句、益々楽しみたいと思います。(久慈)

と「奥の細道」に記されている寺で、「座蒲団」に出てばや寺に散る柳」の句碑や芭蕉と曾良の像も見られた。翌日の表彰式では、二作品が文部科学大臣賞と連句協会奨励賞の大賞を受賞。今回も仲間が喜びを分かちあえた。実作会の後、来年岐阜での再会を約し大会を終えた。【受賞の言葉】

○文部科学大臣賞受賞の「廻りては」の巻は白水台連句会で書いた作品で、連衆は東西衆の会長(九月逝去)、久翠、杉山露翠、岡田伊勢子という、長年の仲間での楽しい語りの中から生まれた作品です。高齢化で仲間の数が減っていますが、芭蕉のころを忘れぬように楽しんでやってゆきたいと思っています。(名本敦子)

○日本連句協会奨励賞の「玉砂利の音」の巻は芽柳連句会の橋本マユミ、矢野信太郎、篠原満子の皆さんで書いた作品です。月一度の連句会ですが、年齢が殆ど同じという事で何を言っても何となく分かりあえ、笑いの絶えぬ楽しい時間を共有できています。

令和5年度 地域こども 文化体験教室

県文化協会では平成25年度より、地域における文化団体および文化活動の活性化を促進するとともに、文化の担い手の育成および次世代への文化の継承に努め、地域および本県文化の振興を図ることを目的に、地域別会員団体が企画する文化体験教室に要する経費の一部を助成する「地域こども文化体験教室事業」を実施しています。今年度は、4市町の文化協会より申請をいただきました。今日は、その中から内子町文化協会の活動についてご報告いたします。

なお、当事業は来年度においても実施する予定ですので、各会員団体の皆様方の御理解・御協力をお願いいたします。

【令和5年度採択】

- 西条市文化協会
- 今治市文化協会
- 内子町文化協会
- 宇和島市文化協会



実施要領

※年度により助成条件や助成金額などが変更になる場合があります。

募集する企画の内容及び条件等

- ・地域別会員団体の構成団体など地域の文化団体が実施する文化体験教室であること。
- ・参加対象について、子どもに限らず、親子とすることも差し支えないこと。
- ・参加料を徴収する場合は、子どもたちが参加しやすい金額とすること。
- ・複数分野の文化を体験できる企画が望ましいこと。
- ・当該年度に実施する文化体験教室であること。

選考方法

- ・申請のあった企画の中から、予算の範囲内で選考する。
- ・選考は別に設置する選考委員会が行う。

助成金額等

- ・企画の実施に要する経費のうち、地域別会員団体の自己負担の範囲内で助成する。
- ・助成金の額は1団体15万円以内とし、地域別会員団体に対して助成する。
- ・助成金の額は、選考委員会が決定する。

内子町文化協会

令和5年10月7日土曜日、「第6回内子町こども文化体験教室」を開催しました。内子町文化協会構成団体全体に参加を呼びかけ9種類(10団体)の体験メニューを用意し延べ236人の来場がありました。体験内容は次のとおりです。

●剣舞(水心流道館内子支部)

参加者は袴を身につけ、すり足の仕方や剣や扇のさばき方などを教わり、講師の動きをまねながら曲に合わせて舞いました。普段身につけることのない袴や剣の扱いを体験できる貴重な機会となりました。

●押し花(花の輪サークル)

押し花(花、葉)を使って人形や動物などを作り、好きなフレームに飾りました。様々な組み合わせで、世界にひとつだけのフレーム飾りを作りました。

●生け花(華道池坊、華道池朋会)

生け花は2つの団体が体験を提供しまし



●大正琴(かしの木大正琴)

楽譜を見ながら演奏する体験をしました。

はじめて大正琴に触れる子どもたちも、練習すると一曲通して演奏できるようになりました。真剣な表情で楽器に向かい「こころ」などの演奏に挑戦しました。

た。1団体は全員が同じ花材を生けましたが、出来上がった作品はそれぞれの個性が反映されたものでした。もう1団体は様々な花材を用意し、自分好みの花を選ぶところから生け花を楽しみました。

●手芸(カントリーママ)

キラキラふわふわした毛糸を使ってポンポンチャームを作りました。お気に入りの毛糸を選んで作ったかわいいチャームを早速力パンに付ける子どもたちの姿が見られました。



●茶道(葵)

お抹茶をいただく作法を中心に体験しました。懐紙や楊枝など普段使う機会の少ない道具の使い方を教わり、お抹茶とともに季節の和菓子を楽しみました。

●絵画(内山絵画同好会)

絵具を混ぜてたくさんの色を作り、子どもたちが自由に絵を描きました。「好き



●将棋(将棋クラブ)

ルールを知っている子が多く、実践的な対局の場を提供しました。将棋を打ちたいけど打てる場所がないという子どもたちが「将棋がしたくて来ました」と続々とやってきました。

なものを好きのように描く」という体験が新鮮だったようで、創作活動ののびのびと楽しみました。

●よさこい囃子と玉すだね(ちびっこ和太鼓サークル和葵)

誰でも簡単に体験できる囃子のほか、当日は神楽で使われる大蛇も用意され、子どもたちが実際に装着して動いてみるなど珍しい体験ができました。玉すだねにはコツが要り、子ども同士で教えあう姿も見られました。

恒例となっている「こども文化体験教室」は普段できない体験ができることや一度に複数の体験ができることや、また、無料で体験できることが好評で多くの子どもたちや親子に参加していただいています。内子町文化協会では、今後も継続して子どもたちへ文化体験の機会を提供していきたいと考えています。

伝統文化 未来づくり 事業

本事業は、伝統文化を学んでいる子どもたちが舞台上で発表する機会とともに、舞台発表の鑑賞やワークショップ体験を通じ伝統文化に触れることができる場を提供することで、伝統文化の担い手となる子どもたちを発掘し、次世代へ継承することを目的に平成27年度から実施しているものです。

今年度も、8月10日(土)エミフルMASAKI(まささき)で「子ども文化体験教室2023」を開催し多数の親子連れの皆様にご参加いただきました。

会場では、文化協会会員の講師による指導のもと、屋内のグリーンコートにおいて生け花のワークショップ、華の演奏や体験、虎舞や日本舞踊の発表等を行いました。発表に参加した子どもたちは日頃の練習の成果を十分に発揮して、素晴らしい舞台発表を披露してくれました。また、初めて伝統文化を体験する子どもたちにも、興味をもって体験に取り組んでもらうことができました。

文化協会会員の高齢化や後継者不足が進む中、こうした事業を行うことで、子どもたちやその保護者が文化に興味を持ち、新たな担い手の獲得につながることを期待しています。

なお、本事業は来年度も引き続き実施したいと考えています。



子どもは初めての生け花とても楽しんでおり、幼児でも習える生け花教室があれば選んでみたいと思った。

参加した保護者の感想

子どもたちが自由のひのひとできてよかったです。

子どもの教育に非常に良いと感じました。

ヒマワリを生けられて楽しかったです。

参加した子どもたちの感想

なかなか難しかったけど、ひけて楽しかったです。

友達と一緒にすごく楽しめました。





令和元年10月13日 第22回ときわぎ出演「阿彌」於京都

常磐津松山錦会 五十年の歩み

松山錦会会長 菊野利三郎

一、常磐津節

常磐津節は浄瑠璃の一種で、語りと唄そして三味線で演奏します。

作品に登場する人物の感情や個性、日本の景色や四季の移ろいを語り唄う浄瑠璃と三味線の音色が物語を展開していきます。

二、松山錦会

松山の常磐津節を愛する諸先輩方の熱意で、昭和四十六年常磐津小欣矢師匠のお父様小欣司様に大阪よりお越しただいてお稽古をはじめから五十年余りを数えます。当初のお稽古場は市内ホテルの和室、松山錦会の連絡所は会員で開業医院内でした。昭和四十八年七月には道後で第一回浴衣会が開催されています。

そして新年会や浴衣会を何度か行いながら、初めての大きな演奏会を昭和五十六年八月二十三日(日)松山市民会館中ホールで開催しました。

常磐津節とのご縁を築いてくださった諸先輩方への感謝と共に熱意を引き継ぎ、現在名取を含む会員十五名がお稽古に励んでいます。



伊予八百八狸由来囃子 舞台

三、演奏会

舞台は、日頃の稽古の成果を発表する機会であると同時に稽古の励みになります。浄瑠璃や三味線で物語の哀感を表現する難しさを感じながらの稽古を積み重ねて演奏する舞台の醍醐味もまた経験いたします。愛媛県民文化祭邦楽邦舞演奏会、愛媛邦楽大同演奏会、関西常磐津協会のときわぎ、伊予八百八狸由来囃子の演奏、そして小欣矢の会、松山錦会演奏会や

描いの浴衣でのおさらい会などがあります。

最近では、昨年十月に大阪国立文楽劇場で小欣矢師匠主催の演奏会があり大ホールの舞台演奏を体験させていただきました。

そして令和三年八月八日(日)の松山錦会常磐津演奏会(於松山市民会館中ホール)は、コロナ禍で一年以上の日程延期を余儀なくされての開催となりました。感涙対策をしながらの進行でしたが、大勢のお客様にご来場いただき盛大に、そして何より無事に開催できましたことは感謝と共に今もなお会員の心に刻まれています。

四、地域との文化交流

伊予八百八狸由来囃子は二十数年前に、小欣矢師匠作曲、河野節子さん作詞若柳由喜衛先生振付、そして中村チズ子先生ご指導のもと松山市久谷地区の子どもたちが踊り伝えております。

五、日本の伝統文化の継承

松山錦会には常磐津のほか小唄・長唄・日本舞踊・茶道・香道・書道など伝統文化の指導者や稽古を続けている会員が多数です。日本の伝統文化のよさを知っていただき、守り伝える大切さをあらためて感じます。常磐津をはじめ邦楽を親しみ楽しむ機会をますます増やしていく努力をしてまいります。

えひめキッズ 伝統文化ネットワーク

会長 田中 静江

えひめキッズ伝統文化ネットワークは令和6年度で15年を迎えます。

平成21年から、一地域伝統文化キッズ・カーニバル」として活動を始め、年1回の成果発表を行ってきました。会場は、子どもたちから「あの大きな大舞台で踊りたい、出たい」と希望のあった「愛媛県民文化会館」



川柳の様子

のサブホールや県民プラザ。平成28年に愛媛県文化協会に入会させていただいた後は、「子ども伝統文化フェスタ」に名称を変更して、県民総合文化祭の一イベントとして引き続き開催しています。

現在、会員は19団体で、愛媛県下の東予・中予・南予から、華道・茶道・川柳・邦楽・能楽・日本舞踊・地歌舞伎・獅子舞・鹿踊り・虎舞・和太鼓の分野で構成されています。「伝統文化の保存・継承」の名のもと、次世代の子どもたちを対象とした文化教室を主宰したり市町の文化祭や施設訪問などに積極的に参加したりしてきました。「子ども伝統文化フェスタ」開会式では、知事感謝状の贈呈も行っており、多くの次期指導者の育成にも携わっています。



着付け体験の様子

令和5年度の「子ども伝統文化フェスタ」では、えひめキッズ伝統文化ネットワーク会員の18団体を含む21団体に参加いただきました。サブホールの成果発表では、それぞれの衣装を着て熱のこもった素晴らしい、魅力いっぱい演技を見ることができました。県民プラザでは、伝統文化体験(虎舞)、季節の花や可愛い花を一生懸命に生けた華道の展示や体験2団体による様々な工夫を凝らしたお茶席やお菓子が楽しめる茶道、多くの子どもたちで賑わい、大人顔負けの力作が揃った川柳などが行われました。他にも、筆の体験では、音色に癒しそうな子どもたちの表情が見られ、水引リースのワークショップは毎年予約券を出すほどの人気ぶりです。今年初めて企画をした着付け体験では、あつという間の先生の着付けに、いけばなの展示をバックに嬉しそうに写真を取り合う親子連れの姿も見られました。

また、昨年のアンケートにて要望のあった、「参加団体と来場者をつなぐ」取り組みとして、団体紹介カードが初登場しました。さらに、スペシャルゲストの徳島県阿波踊り協会「風来坊連」のステージは、参加型のワークショップに会場が盛り上がり、初めて一つになった瞬間でした。事務局、委託業者、参加団体など様々な立場が積極的に交わりあい、意気込みの感じられたイベントだったと思います。

愛媛県には素晴らしい伝統文化がいっぱいあります。それらが埋もれていくのは大変惜しまれます。今のうちに手を差し伸べ、援助をし、後世に残していく活動を是非進めてほしいと願っています。



阿波踊りワークショップの様子

佐田岬半島のミュージアム(伊方町)

佐田岬半島ミュージアム学芸員 前田 美和

【日本一細長い半島・佐田岬半島】

佐田岬半島は四国から九州に向かって伸びる四国最西端の日本一細長い半島です。伊方出身の詩人・高橋新吉はこの半島を象の鼻に例えました。かつては船が主要な交通手段でしたが、メロデューライン(国道197号)開通後はツーリングや九州へ車で渡る人も多く訪れています。

2023年夏、そんな佐田岬半島に、新たに「佐田岬半島ミュージアム」がオープンしました。

年に発足、「調査研究」「収集保存」「企画展示」「学習支援」という博物館の4つの機能を市民参加でやってみようというコンセプトで活動開始。以来、町内の石造物調査や昔の暮らし調査、集落めぐりなどを行い、一部の調査成果は調査報告書として刊行されています。こんな町見郷土館と佐田岬ミュージアムが生まれました。

【佐田岬半島ミュージアム】
2023年3月に町見郷土館が開館し同年8月5日に佐田岬半島ミュージアムが開館しました。当館エントランスに入ると壁面に大きなウマのイラストが描かれています。その名も「ミュージウマ」。4本足にはそれぞれ「調査研究」「収集保存」「企画展示」「学習支援(交流)」、胴体には「運営」頭には「使命」の文字、町見郷土館時代から使われてきた博物館のしくみを表現したキャラクターで当館はミュージウマのよう「4本足」の活動をバランスよく行いながら歩を進めたいと考えています。

【町見郷土館と佐田岬みつけ隊】
佐田岬半島ミュージアムの土台となっているのは前身の町見郷土館です。1997年に閉校となった旧伊方町立町見中学校の校舎を再利用し、1999年6月に開館した町立博物館で、年間来館者は1000人程でした。そんな小さな町見郷土館の活動を充実させたのは「佐田岬みつけ隊」です。

佐田岬みつけ隊は町見郷土館のサポートとして2005



佐田岬みつけ隊の資料調査活動の様子

佐田岬みつけ隊の資料調査活動の様子



ミュージウマ

当館には企画展示室と常設展示室の2つの展示室があります。常設展示室は佐田岬半島を自然・考古・歴史・民俗を7つのセクションにわけて紹介しています。最初の部屋に入ると、まず足元に撮影年の異なる佐田岬半島の大きな空中写真が3枚並んでいて(1975年、1966年、1954年)海岸線の変化や山の段々畑の移り変わりが見えるようになっていきます。続いて、岩石標本や出土した考古資料、江戸時代の国絵図や年表を展示し、半島の自然や歴史が紹介されています。

後半は民俗資料を中心に半島の暮らしを紹介。県内でも特徴的な男性業釣り漁師の海士をはじめとした多様な



常設展示室

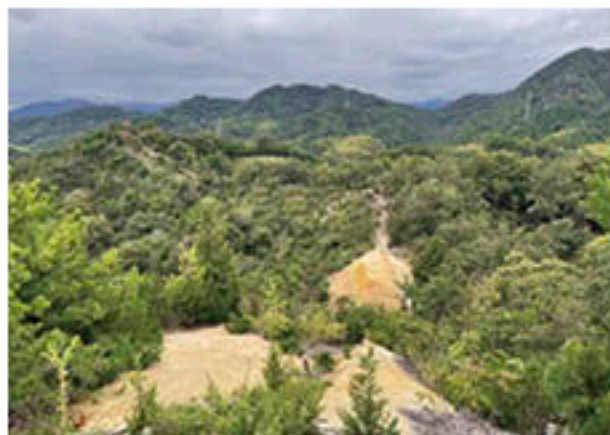
様々なイベントを実施しています】
開館以来「佐田岬半島」をメインテーマとして、様々なワークショップを行っています。「佐田岬半島の星空観察会」や「セミの抜け殻探偵団」などの体験型ワークショップ、様々なジャンルの講師にお話しいただく「サダミュージアム」(佐田岬半島の自然スライド上映会)(毎月第4水曜日)などを開催。今後も実施していく予定です。

ぜひ佐田岬半島ミュージアムへお越しください。今まで知らなかった佐田岬半島の新たな一面が見えてくるかもしれません。

徳業、実は戦前は伊方村が収蔵庫県内1位であった養蚕業、交通の不便、年中行事等様々な角度から佐田岬半島の暮らしやその移り変わりを示しています。体験コーナーはハンズオン展示を重視し、製織やオイコを実際に着用することもできます。

また、展示替えも随時行い、来る度に新たな発見があり、楽しんでいただける展示を企画して作っています。さらに、当館の名パイプレーヤーとして、ミュージアムガイドも活躍中。ガイドと展示室を回ることで、資料や解説パネルだけでは見えてこない半島の新たな一面が見え、楽しんでいただけるのではないのでしょうか。

最後に、来館された際には屋上からの眺望を楽しんでいただきたいと思っています。屋上からは宇和島と瀬戸内海の両方の海を一度に見る事ができます。



南東部城壁遺構

永納山城は、高橋半島の付け根に位置する独立丘陵上に築城された山城で、西条市と今治市の境に所在しています。山城に登ると、北は古代伊予国の中心地であった今治平野、南は県内第2の面積を誇る道前平野を見渡すことができます。また、東は畿薩が眼下に広がり、西側ふもとは古代官道「南登道」の有力な想定ラインが通り、永納山城が海・陸両方の交通の要衝を押さえる場所に築かれていたことを実感できます。

永納山城跡(西条市)

西条市教育委員会 渡邊 芳貴



7世紀後半、国家防衛の一翼を担うために築かれた古代山城の一つと考えられます。古代山城とは、今から約1300年前、日本の古代国家形成期に築かれた山城です。当時、朝鮮半島では高句麗・百濟・新羅の三国が半島の覇権を争い、さらに半島を支配下に治めようとしていた中国大陸の唐も加わり、戦乱が続いていました。このような中、660年に唐・新羅の連合軍によって百濟が滅ぼされ、663年に日本は百濟の援軍要請に応え半島へ出兵しましたが、大敗を喫しました(白村江の戦い)。敗戦後、唐・新羅の侵略を恐れた日本は、百濟の亡命貴族たちの指揮・監督を受けて、九州北部から瀬戸内海沿岸地域の要衝に山城を築いたという記事が『日本書紀』や『続日本紀』にみられます。残念ながら永納山城の名前は、これらの文献には出てきません。しかし、遺跡の発見以降、断続的に実施された発掘調査により、永納山城はこれらの山城とはほぼ同時代のものであることが明らかとなりました。



調査時の土塁

永納山城の城壁
永納山城の規模は、指定面積で約40haと広大です。城壁は永納山の尾根の外側斜面に全長約2.5kmの長さで、尾根の傾斜に沿うように巡ります。代表的な城壁構造には、古代山城に特徴的な列石と土塁による城壁があります。城壁の基礎となる列石の大きさは、標準的なもので幅30〜40cm程度、場所によっては幅1mを越えるものも存在します。列石の上に築かれた土塁は版築工法によるものが主体ですが、粗い盛土によって積まれた場所も確認される等、その状況は多様です。この他に石積みによる城壁や自然地形を利用した城壁も確認されています。なお、城壁の高さは現在確認されている中で最も高い箇所が約2.6mを測ります。

城内の遺構
城内では、南東部で鍛冶遺構が確認されています。鍛冶炉、金床石、そして燃料の炭を置いていたと考えられる炭置き場が発見されました。なお鍛冶炉は、直径約22cmと小型で、工具類の製作や修理を目的としていたのではないかと考えられます。さらに鉄器づくりに関連する遺物として、鍛冶遺構の周



復元した土塁

には、南西部から南東部の整備が完了し、現地では尾根沿いに巡らされた列石や復元された城壁を見学できます。また令和4年度からは北東部の整備を開始しています。ぜひ、現地を訪れて1300年前の歴史を体感してみてください。

進む史跡整備
西条市では、令和2年度から永納山城の現地保存整備を進めています。令和3年度には、南西部から

田から種々の羽口や炉底等がたくさん出土しています。このような状況から、本来はさらに多くの鍛冶炉が存在していたことが推測できます。
遺跡の時代を推測する手掛かり
永納山城の年代を推測する手掛かりとしては、発掘調査で出土した土器があります。土器の種類には須恵器や畿内系土器等があり、これらの土器の時期は8世紀初頭前後のものが多いです。ではこの時期は、永納山城のどの時期を示すのでしょうか。築城の時期？それとも城として機能していた時期？その特定には至っていませんが、当時は、国内・国際情勢ともに目まぐるしく変化していて、数年の連いが築城目的の違いに反映されている可能性もあります。今後の資料増加に期待しましょう。

文化イベント情報

古曲を楽しむ会

日時 令和6年6月18日(日)
13:00開演(予定)
会場 松山市民会館 小ホール
内容 愛媛県三曲協会会員による華・三絃・尺八の演奏会。東・中・南予、県下全域より参加。出演の各社中が古曲を各1曲全部通して(演奏時間のながいものも)演奏。
入場料 無料
主催 愛媛県三曲協会
お問い合わせ 愛媛県三曲協会会長 今井謙凡
TEL 090-7145-7024

ジャズ

Afternoon Jazz Live & Session



日時 令和6年3月3日(日) 14:00～
会場 ジャズ・イン・グレッツ
内容 一部は、九州中心に活躍中のギター、山野修作、熊本出身高知在住のボーカル、尾方隆子と愛媛のピアノ、栗田敬子のライブです。二部は地元ミュージシャンとのセッションの予定です。九州のミュージシャンとの交流をジャズを通して楽しみましょう！
入場料 2,500円、セッション参加費800円 要オーダー
主催 栗田敬子
お問い合わせ 栗田敬子 TEL 090-2890-8304
ジャズ・イン・グレッツ
TEL 089-941-6054

アネッタ・セント・ジョン (from NY) 友情ツアー・イン松山

日時 令和6年4月28日(日) 19:00～
会場 モンク
内容 アネッタ・セント・ジョン (vo) さんは、ジャズのメッカ、ニューヨークハーレム生まれの生粋のニューヨークカードラマーの叔父の影響で、幼い頃からブルース、ゴスペル、ジャズを始め、ハーレムのアポロ劇場、NYの老舗ジャズクラブ「ブルーノート」などで活動中。1981年～1989年NYで活躍後、現在大阪在住のトランペットの行本清高と、地元で活動中のピアノ栗田敬子、ベース岩崎悠太、ドラムス河北洋平が共演します。ジャズ(音楽)は言葉は要らない、ジャズで国際交流です。
入場料 前売4,000円、当日4,500円 要オーダー
主催 MONK
お問い合わせ えひめジャズネットワーク
栗田敬子 TEL 090-2890-8304
モンク TEL 089-945-9512

美術

第72回春季県展

日時 令和6年4月16日(土)～24日(水)
9:40～18:00
(最終日は新館・南館とも15:00まで)
会場 愛媛県美術館 新館特別展示室1、2、3
/日本画・版画・写真・デザイン
南館1～12 /洋画・彫刻・工芸・書道
内容 春季展はアンデパンダン方式で、平等で自由な展覧会です。この精神に則り、ご希望の方の作品をすべて春季目録に掲載します。
入場料 当日一般600円、65歳以上・高校生400円、小学生、身障者(手帳持参)無料
主催 愛媛県美術館・愛媛県・愛媛新聞社・愛媛県文化協会ほか
お問い合わせ 愛媛県美術館 TEL 089-993-7224

第47回愛媛女流書家連盟展

日時 令和6年7月17日(水)～21日(日)
9:40～18:00(最終日は18:00まで)
会場 愛媛県美術館南館ギャラリー1・2・3・7
内容 会員128名が、漢字・かな・大字書・近代詩文・前衛書等を出品。テーマは「源氏物語」によせて。
入場料 無料
主催 愛媛女流書家連盟・愛媛新聞社
お問い合わせ 愛媛女流書家連盟会長 藤岡抱玉
TEL 089-984-1624



三曲

第61回愛媛県三曲協会定期演奏会

日時 令和6年4月14日(日)
12:00開演(予定)
会場 松山市総合コミュニティセンター
キャメリアホール
内容 愛媛県三曲協会会員による華・三絃・尺八の演奏会。東・中・南予県下全域より参加。古曲・現代曲等様々な曲を演奏。
入場料 無料
主催 愛媛県三曲協会
お問い合わせ 愛媛県三曲協会会長 今井謙凡
TEL 090-7145-7024



華道

愛媛県華道会「華展」



日時 令和6年3月23日(土)～24日(日)
10:00～17:00(最終日は16:00まで)
会場 松山市総合コミュニティセンター
内容 愛媛県華道会7流派の年に一度の展覧会です。テーマは「花にこころ映え」会場に繰り広げる花の競演をご高覧ください。
入場料 無料
主催 愛媛県華道会
お問い合わせ 愛媛県華道会事務局
TEL 089-931-7752

連句

新緑連句大会

日時 令和6年4月7日(日) 13:00～16:30
会場 松山市 コムズ
内容 新会員の紹介を兼ねた連句大会です。連句は長句と短句を交互に付け進んでゆきます。1巻に月・花・恋を踏み込み時間の可も欠かせません。想像力を掻き立てるのが連句です。また、「楽しくなければ連句じゃない」とも言われています。気軽に参加ください。
入場料 無料
主催 愛媛県連句連盟
お問い合わせ 愛媛県連句連盟事務局
TEL 089-923-9663

第28回えひめ俵口全国連句大会



日時 令和6年4月29日(月) 10:00～16:00
会場 松山市 コムズ5F大会議室
内容 28日：前夜祭
29日：午前には表彰と講演、午後は実作会。講演の演題は東雅会代表 杉山壽子氏、「東明雅先生に教えて頂いたこと」。聴講希望の方は事務局までご連絡ください。
入場料 3,000円(当日見学・聴講の方は無料)
主催 えひめ俵口全国連句大会実行委員会・愛媛県連句連盟
お問い合わせ えひめ俵口全国連句大会実行委員会事務局 TEL 089-904-1307

春季生活文化部展示会



日時 令和6年4月20日(土)～21日(日)
10:00～16:00(予定)
会場 松山市総合コミュニティセンター
展示室1
内容 会員「愛媛洋装会」による様々な洋装と「公益社団法人全日本きものコンサルタント協会愛媛県」による着物の帯結びを展示します。
入場料 無料
主催 松山市文化協会
お問い合わせ 松山市文化協会
TEL 089-909-8008

第31回二之丸新能

日時 令和6年5月8日(水)
18:00～20:30(予定)
会場 松山城二之丸土跡跡内特設能舞台
旧幕藩時代から城下の人々に親しまれてきた能楽を、ゆかりある松山城二之丸土跡跡において開催します。
入場料 一般1,400円、協会会員1,000円、高校生以下700円
主催 松山市文化協会
お問い合わせ 松山市文化協会
TEL 089-909-8008



二之丸大茶会

日時 令和6年5月11日(土)～12日(日)
10:00～15:00(予定)
会場 松山城二之丸土跡跡
内容 風薫る季節に、市内各流派による茶会を開催。抹茶や煎茶によるお点前を披露。
入場料 400円(別途入場料が必要)
主催 松山市文化協会
お問い合わせ 松山市文化協会
TEL 089-909-8008



松山市民吹奏楽団 第49回定期演奏会

日時 令和6年6月16日(日)
13:00開場 14:00開演
会場 松山市民会館大ホール
内容 松山市民吹奏楽団結成50周年公演。クラシックやポップス音楽を演奏し生演奏の良さを体感いただける演奏会。
入場料 一般(大学生以上)1,000円、高校生以下無料、本校生不可
主催 松山市民吹奏楽団
お問い合わせ 松山市民吹奏楽団 藤崎治郎
TEL 090-5141-5515



総合

第十五回 東雲能

日時 令和6年4月4日(木)
14:00～16:00
会場 東雲神社本殿前
入場料 2,000円
主催 東雲能実行委員会
お問い合わせ 東雲能実行委員会
事務局携帯 TEL 090-4784-5847

松山城山まつり

日時 令和6年4月6日(土)～7日(日)
10:00～15:00
会場 松山城ロープウェイ駅舎
内容 薄茶点前をしながらお客様(観光客)にお菓子と抹茶を差し上げる。
入場料 400円(お菓子+抹茶)
主催 松山市
お問い合わせ (一社)茶道裏千家茶交会松山支部
岡本宗由 TEL 089-975-8219

第57回にいはま春の市民文化祭①



日時 令和6年4月7日(日)・13日(土)・14日(日) 13:00～16:00
4月21日(日) 14:00～16:00
会場 新居浜市市民文化センター大ホール
内容 芸術発表会、市民吹奏楽
入場料 無料
主催 新居浜市
お問い合わせ 新居浜市文化振興課
TEL 0897-65-1554
新居浜文化協会
TEL 0897-36-0874

第57回にいはま春の市民文化祭②

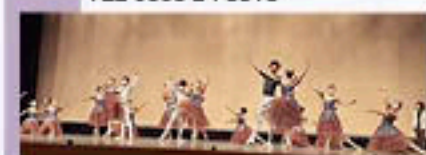
日時 令和6年4月6日(土)～14日(日)
9:30～17:00(休館日4月8日(月))
会場 あかがねミュージアム
内容 書道・日本画・洋画・工芸・写真・デザイン・版画・絵手紙・文芸・菓道の展示
6日(土):各部門によるギャラリートーク
12日(金):19:30までナイトミュージアム
入場料 無料
主催 新居浜市
お問い合わせ 新居浜市文化振興課
TEL 0897-65-1554
新居浜文化協会
TEL 0897-36-0874



バレエ

第53回えひめバレエ祭

日時 令和6年3月10日(日)
13:00開場 13:30開演
会場 愛媛県県民文化会館メインホール
内容 愛媛バレエ協会加盟10団体によるクラシックバレエの競演。各団体から代表3名ずつ出演する総勢30名によるオープニングで幕開け、各団体がそれぞれオリジナルなバレエ作品を上演いたします。
入場料 無料
主催 愛媛バレエ協会
お問い合わせ 愛媛バレエ協会会長 内田久美子
TEL 0895-24-5013



浪曲

第11回 虎造節全国大会

日時 令和6年5月25日(土)
13:00開演(12:30開場)
会場 松山市民会館 小ホール
内容 演曲は日本の芸能史の原点となるもので、明治から昭和にかけて150年間、庶民に愛されました。中でも二代目廣澤虎造は、完成度の高さから演曲の代名詞として「虎造節」と呼ばれ「結芸の至宝」と評されています。没後80年にあたる今なお多くのファンを持ち続けています。虎造の結芸に挑戦し続けている会員達の練習の成果をお楽しみください！
観覧料 事前予約1,000円、当日1,500円
主催 虎造節保存会
お問い合わせ 虎造節保存会
TEL 090-8287-1390



吹奏楽

愛媛リエート吹奏楽団 第17回定期演奏会



日時 令和6年5月5日(日)
13:00開場 14:00開演
会場 松山市総合コミュニティセンター
カメラアホール
内容 ポップスやクラシックなど幅広いジャンルの曲を詰め込んだ演奏会。様々なジャンルの演奏を聴いて頂くことによって、吹奏楽と音楽の良さを伝える演奏会。
入場料 無料
主催 愛媛リエート吹奏楽団
お問い合わせ 愛媛リエート吹奏楽団 榎田愛奈
TEL 080-6386-4152

筆のまよふに

(題字 藤岡抱玉)

落語家 林家染太のファンです

松山聖徳高等学校教頭 願成寺優

松山出身の落語家、林家染太について話をしたい。県立高校の国語科教師をしていた私が、平成五年に松山北高に転勤した際、染太は三年生だった。その頃の私はエッセイを書くのが趣味で、エッセイを書いては授業中に生徒に配布し、「どう、感動しただろう」とよく感動を強制していたものである。(笑)

学級通信や現代文の授業や文芸部の雑誌や生徒会誌に、たくさんエッセイを書いて一年が過ぎた卒業式の前日、染太が私のところにやってくる。「先生、僕は先生の文章のファンです。この色紙に揮毫をお願いします。明日の卒業式に取りに来ます」……私はほかん口を開けたまま、いかつい体に温かな笑顔の染太を見ていた。染太が帰った後、まず初めて聞いた「揮毫」という言葉を辞書で調べ、字の下手な私は愕然とし、それでも仕方ないからマラソンを初めて完走した時に作った詩を色紙に書いて彼に贈った。染太は笑顔で色紙を受け取ってくれた。それから染太のことを思い出すこともなく四年が経って、教育実習の初日、染太は国語の教師を目指して北高に戻ってきた。名前も忘れていた私に「先生に揮毫してもらった染太です」……その笑顔はあの頃と同じ温かさに溢れていた。自分の国語の授業を見せたり、染太の授業に動きをさせたり、染太と一緒に国語の教師をやれることにワクワクしていた私だったが、染太は関西大学で英研に所属し、既に「マウンテングリラ」という芸名まで持っていた。そして、卒業後、彼は教員にはならず、「林家染太」になったのである。松山であつた彼の「独演会」に花束を持って出かけて行ったら、「先生、僕の色紙まだ持ってますよ」とききつけてくれた。お世辞でもうれ

しい。私の最後の勤務校の新居浜西高では、芸術鑑賞会として独演会を行ってもらった。皆さん、松山出身の落語家、林家染太に温かいご声援をお願いします。私のエッセイのファンは、実は結構いるのですが、間違いない染太は「私のエッセイのファン第一号」なのです。



新居浜西高校長芸術鑑賞会での一枚

このコーナーでは読者の皆様からいただいた投稿を随時掲載しております。欄外は、400～600文字で作成いただき、住所、氏名、所属団体名、電話番号、ペンネーム(ペンネームで投稿する場合は)を明記のうえ、本ページ下に掲載しております県文化振興事務局まで郵送してください。皆様の声をお待ちしております。

受賞のご紹介

阿部りか氏(今治市)が令和5年度「地域文化功労者文部科学大臣表彰」を受賞されました。

阿部りか氏は、愛媛県現代舞踊協会において、理事、副会長を歴任し、平成23年から愛媛現代舞踊協会会長を務められるなど、長年にわたり組織の発展に努め、地域の文化振興に貢献されました。

また、自ら主宰するRKA DANCE WORKSにてダンス指導をとおして幅広い世代にダンスの魅力を伝え、後進の育成に尽力されているほか、(一社)現代舞踊協会西国支部の副支部長を歴任されるなど、県内外で現代舞踊の普及発展に多大な貢献をされています。

県民総合文化祭モダンダンス公演では、県内各地の様々な会場を回り幅広いジャンルの創作作品を上演いただいているのみならず、開催地の文化団体とコラボレーション演目を取り入れるなど、県民が広く現代舞踊に触れる機会を創出されています。

立脇絢子氏(松山市)が令和5年度「愛媛県教育文化賞」を受賞されました。

立脇絢子氏は、愛媛バレエ協会の前身である愛媛洋舞協会の創設に尽力され、平成20年から会長、平成26年から理事を歴任され、長年にわたり組織の発展に努められ、愛媛県文化協会理事や県民総合文化祭実行委員会委

員などの要職を務められるなど、本県の芸術文化の振興に多大な貢献をされています。

また、県内各地にバレエ教室を創設し、学生・生徒による「全専バレエ」作品の発表を続け、国内はもとより世界で活躍するバレエダンサーを指導されるなど、64年にわたり後進の育成に尽力されました。加えて、えひめバレエ祭や県民総合文化祭のパレエ公演などを通して、日頃の成果発表の場を提供されるとともに、県民にバレエ鑑賞機会を提供するなど、バレエ文化の普及発展に寄与されています。

賛助会員の募集

愛媛県文化協会では、愛媛の文化活動並びに当協会を側面から支援してくださる企業・個人の賛助会員(一口1万円)を募集しています。愛媛文化の将来を担う人づくりと、文化を左記した地域活性化のため、1人でも多くの方々に応援いただけるように、積極的な呼びかけを行っております。会員の皆様も、お住まいの地域で応援いただける方への呼びかけ等にご協力ください。

特典

- 1 機関紙「文化協会えひめ」の送付(年2回発行)
- 2 機関紙への賛助会員名簿の掲載(年1回)
- 3 県民総合文化祭事業への招待
- 4 その他愛媛県文化協会主催行事ほか関係情報の提供

今号では、10～12月にかけて開催された県民総合文化祭を中心に編集いたしました。私自身、初めてスタッフ側として参加した県民総合文化祭では、これまで触れることができなかった文化事業に触れ、各文化団体の情熱を垣間見ることができました。また、コロナ禍から少しずつ日常に戻ってきている中で、ライブで観る文化イベントの迫力を肌で感じ、その意義を再認識し、そうしたイベントに参加できるようになった喜びを感じたところです。

今後も、引き続き愛媛の文化事業を盛り上げられるよう精一杯努めてまいります。(こ)

- 編集委員**
- 委員長 森原直子(松山市文化協会)
 - 副委員長 藤岡抱玉(愛媛女流書家連盟)
 - 名本敦子(愛媛県連句連盟)
 - 森川啓子(四国中央市文化協会)
 - 末光勝幸(伊方町文化協会)

編集後記

お問い合わせ

〒790-8670
愛媛県観光スポーツ文化振興局
文化振興課内 愛媛県文化協会事務局
TEL 089-947-5480
FAX 089-913-2617



▲QRコード電子版